



ふれあい

URL <http://www.tkgh.jp>

E-mail general@tkgh.jp

発行所 総合病院 土浦協同病院 発行人 家坂 義人
〒300-0053 茨城県土浦市真鍋新町11-7 TEL029-823-3111



偕楽園の梅祭り 撮影者：香取 逸美

小児科救急の上手なかかり方

小児科部長 渡辺 章充

児童虐待が子ども医療の世界で問題になっていますが、もちろん多くの親御さん達はお子さんを非常に大切に育てています。しかし、その大切にする気持ちが、時にはお子さんにかえて負担をかけてしまうこともあります。具合が悪い子どもを救急外来に連れて行くのは、一刻でも早く子どもを楽にして上げたいという当然の親心ですし、時間的に早すぎる受診も、様子を見すぎて治療が後手に回るよりはましです。ただ、子どもの病気の急性期は、病院での検査や投薬を受けることよりも、自宅で安静に過ごす方がむしろ体にとって有意義なことが多いものです。大切なことは、どんな症状があれば救急外来に罹った方が良く、どの程度までであれば自宅で安静にしておいた方が楽なのかの判断をすることです。

ポイントを図表に示しました（地域の講演会で使用したスライドの一部です）。とにかく基本は、意識「頭がしっかりしているか」、呼吸「息をちゃんとしているか」、循環「血のめぐりは保たれているか」、この3つの確認をすることです。会話が来て、の呼吸をしていて、手足が温かければ、緊急性の高い状態であることはまれです。逆にどれか一つでも平常と違う状態であれば、救急外来を受診した方が良いでしょう。お子さんの普段の状態をよく知っている保護者の方の、「いつもと違う」と言う評価は重要です。ただ、漠然といつもと違うと判断するだけでなく、意識・呼吸・循環を確認する習慣を身につけられれば、さらに適切な判断につながっていきます。

次面へ

<上手なかかり方のポイント>

救急外来にかかる必要のある病気は「重い」のではなく「対応を急ぐ」病気

- ・まず最初にすべきは「病名診断」でなく「今の状態が重いか軽いか」
- ・重い・軽いを判断する基本は3つ
 - ・「頭はしっかりしているか」
 - ・「息をちゃんとしているか」
 - ・「血のめぐりは保たれているか」

意識
呼吸
循環

頭はしっかりしているか

- 目を開けている 視線が合う
- × 目を閉じているぼんやりしている
- 嫌がって暴れている
- × ぐったりとして動かない
- すやすやと気持ちよさそうに眠っている
- × いつもと違う寝息で変な感じで眠っている

息をちゃんとしているか

- 力強く泣いている × うなっている
- 、△ 咳が強い
- × 息がゼーゼーしている、ヒーヒーしている
- 息を吸うときに胸がふくらむ
- × 息を吸うときに胸がへこむ
- 横に寝そべている
- × 横になると苦しくて座っている
- 唇の色が赤い × 唇の色が紫

血のめぐりは保たれているか

- 手足の先があつたかい
- × 手足が冷たい
- いつも通りにおしっこをしている
- × 半日以上おしっこをしない
- 涙を流して泣く
- × 泣いても涙がでない
- 唇がしめっている
- × 唇が乾いてカサカサしている

判断に迷えば・・・

- ・18:30～23:30なら **こども救急電話相談**
#8000 または 029-254-9900
- ・「日本小児科学会」のホームページ内の「こどもの救急」をみる <http://kodomo-qq.jp/>
- ・「茨城県小児科医会」のホームページから「小児救急」 → 「こどもの救急ってどんな時」 へと進む

熱が高い

- ・高熱＝重症ではない
- ・緊急の目安は **41℃**
- ・熱は一度上がれば、数日は続くもの
- ・原因の殆どは力ぜ；
ウイルス感染症で自然に治ることが多い
- ・ただし、**6ヶ月未満の乳児**は注意！

熱への対応

- ・冷やしたり暖めたり目安は、子どもが**気持ちよさそう**にしているかどうか
- ・解熱剤は高温でかつ、**辛そう**なときだけ
- ・お風呂は控えめに 室温調整の方が大事
- ・熱の原因診断は、**半日から24時間**くらい経過してからの方が受けやすい
→ 朝の発熱なら午後～夕方、午後からの発熱なら翌朝 医療機関へ

解熱剤は常備しておくと良い！

せき・息苦しさ

- ・「せき」そのものは必要なもの
 - ・肺炎は重症にならないと呼吸が苦しくならない
↑
 - ・呼吸そのものが苦しうなときは悪い
・←「息をちゃんとしているか」
・**気管支喘息** ←数としては一番多い
 - ・クループ
 - ・異物
- などは急に重くなる！

せき・呼吸苦への対応

- ・加温・加湿をする
- ・喘息と過去に言われて薬があれば、指示通りに使用してみる
- ・横になって寝ていれば、座らせてみる
- ・部屋の空気を換気してみる
- ・家族は**禁煙**が原則

吐く・下痢をする

- ・ウイルス性胃腸炎「おなかの力ぜ」は**最初の数時間**はかなり吐く・・・半日くらいで落ち着く
- ・症状が時間と共に悪化する時や、「**血便**」(血が『混じる』)のではないがあつたり、おなか全体でなく、**特に痛い場所がある**場合は→緊急度が高い！

嘔吐・下痢への対応

- ・脱水の予防が目標←「血のめぐりが保たれているか」
- ・吐き始めの数時間は何も与えない
- ・胃腸炎用もしくは**乳児用のイオン水**を**少量ずつ**飲ませる(スポーツドリンクではありません)
OS-1 アクアライト など
- ・吐かなくなれば、下痢をしていても水分以外の食事をしてもいい
「少しずつ」がポイント

お子さんが急な病気で心配なとき、ご相談ください。

茨城子ども救急電話相談

毎日の夜間 18:30～23:30
休日の昼間 9:00～17:00
※日曜・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)

フッシュ回線の固定電話、携帯電話から
短縮ダイヤル

#8000

すべての電話から
029-254-9900

相談は無料です。ただし通話料は利用者負担となります。

茨城県小児科医療情報コントロールセンター
電話 **029-241-4199** 年中無休24時間対応

平成26年度新人看護職員研修

看護部教育委員会 矢戸 正子

平成26年度看護部では、61名の新入職員を迎え新たにスタートしました。新人看護職員は、国家資格を取得し、今まで培った知識と技術を臨床現場につなげていけるよう専門職業人としての責任を自覚し、緊張しながらも希望を持って取り組んでいる姿勢が伺えました。就業してから、病院組織の概要と看護の特徴を理解し、専門職として基本的な姿勢や態度を養うことを目標に研修を企画しました。研修内容は、個人情報やコンプライアンス、感染管理や医療安全管理のほか接遇研修や基本的な看護技術とヒューマンスキルなどについてです。新人看護職員を支えるためには、全職員が新人看護職員に関心を持ち、皆で育てるという組織文化が重要です。新人看護職員を支援し、周りの全職員が共に支え合い成長出来ることを目指して参ります。



土浦協同病院附属保育所ひまわり 第5回卒園式

庶務課(保育所担当) 長谷川 博史

平成26年3月28日、桜の開花する時期と重なるように、「土浦協同病院附属保育所ひまわり 第5回卒園式」がとり行われました。遅ればせながらも寒かった冬から、穏やかな陽の光が降り注ぐ春へと季節が変わる中、12名の園児が卒園の日を向かえました。

開式のことばに始まり、卒園の歌、保育証書授与、藤原所長先生祝辞、卒園児・在園児のお別れのことばと式が続きましたが、園児たちは立派に式をこなしました。お父さん、お母さんにもしっかりとお礼の言葉を述べることができました。

園児たちは短くても4年2か月、長い児は6年間をこの「ひまわり」で過ごしました。こどもは産まれてくるときに、お父さんとお母さんを選んで産まれてくると言いますが、この12人はそれといっしょにこの「ひまわり」を選んできてくれた児たちだったのでしょう。どの児も大きく立派に成長し、4月からはそれぞれの小学校に通い始めます。在園児たちも、巣立ってゆくお兄さん、お姉さんの姿を見て「あしたの自分」を重ねていたことでしょう。今後も第6回、第7回と続いてゆくよう頑張ってください。

